八丈島水産だより

7月号

2022年

様々な種類のアジサイ

たんぼまつりでの田植えの様子
@親水公園

6月中旬以降、いよいよ本格的な梅雨が始まりました。この時期はアジサイが雨粒を輝かせ、島中で美しく咲き誇ります。また、6月19日には親水公園で『たんぼまつり』が行われ、子どもから大人まで多くの島民が朝から田植えに参加しました。この日に植えた稲は秋に向けて大きく成長し、秋の『たんぼまつり』にて収穫される予定です。

梅雨の時期は空気がどんよりとして気持ちまで落ち込みがちですが、今の季節ならではの自然を楽しみ、八丈島のにぎやかな夏が始まるまでの時間をのんびりと過ごすのも素敵ですね！

■ 最近の漁模様

今の時期は主にキンメダイやハマダイなどの底魚を多く漁獲していますが、梅雨の時期は湿度が高く魚が傷みやすいため、お刺身としての需要が高い魚種は高く売れないとされています。魚の値段は需要と供給のバランスや魚の旬など様々な要因で変化するため、漁師さんたちは魚の値段も考慮しながら漁獲量を調整し、漁業を行っています。

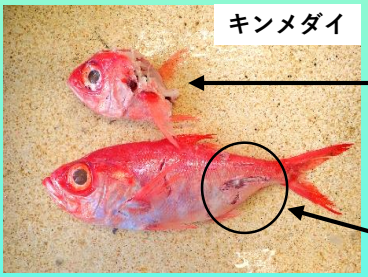
魚の値段が変動する要因の一例

高くなる	安くなる
・需要が高い ・供給が少ない (あまり獲れない)	・需要が低い ・供給が多い (たくさん獲れる)

←ハマダイ
(八丈名:オナガ)

八丈島では、ハマダイのお刺身を祝い事の料理として食べる風習がある。

■ サメやイルカ・クジラによる漁獲被害　～「食害」について～



キンメダイ

身体のほとんどの部分をかじられた状態で漁獲されている。

傷がついているため売り物にならない。

八丈島付近で捕獲されたヨゴレザメ

八丈島周辺の海域では、操業時にサメやイルカ・クジラなどに魚を横取りされる『食害』と呼ばれる被害が多く報告されています。サメによる被害は水温が高くなる夏～秋にかけて増加し、イルカ・クジラによる被害は季節に関係なく発生します。食害を減らすため、駆除や操業場所を移動する回避方法がとられています。食害により魚の一部を食べられてしまって売り物にならなかったり、漁獲量が減ってしまうなど、漁師さんにとってはとても大きな問題となっています。

東京都八丈支庁産業課　HP：http://www.soumu.metro.tokyo.jp/09hatijou/　TEL：04996-2-1113　Instagram：https://instagram.com/hachijoshicho/